

神奈川選手団 決意表明

本日は、このような結団式を開いて下さり、ありがとうございます。

私たちは、7月5日の第42回神奈川県陸上競技大会の結果、各種目の代表として、参加選手453人の想いを胸に込め11月2日の全国大会に臨みます。

今日を迎えるまでに、陸上競技を通して多くのことを学びました。その一つが、「仲間の大切さ」です。

陸上は個人競技と思っていましたが、練習がきつくて、もう無理…と思った時、「もう一本、一緒に頑張ろうー!」と最後まで励ましてくれる仲間がいました。ケガをして思うように動かせなかった時も、記録が伸び悩んだ時も、「焦ってやりすぎはよくない」と信じて待っていてくれる監督コーチがいました。自分の経験をもとにアドバイスをくれたり、応援してくれる先輩方もいます。日々の生活はもちろん、練習や大会の度に、心を整え、送り出してくれる家族がありました。

夢の舞台に立つため、競技を続けてこられた、大切な理由です。

私が出場した混合リレーでは、チームで想いを一つにして、バトンをつなぎました。出場メンバーだけではなく、応援し、見守り、背中を押してくれた、全員の想いがこもったバトンのおかげで、何倍もの大きな力が出せました。

一人ではここまで達成できなかったことを決して忘れず、全国大会に挑みます。

自分は、全国予選アンカーを走りました。その時、自分と競り合ったハピネスACの選手が、ゴールした直後に「おめでとう」と言ってくれました。自分だったら負けて悔しいのに、相手チームの勝利をすぐには喜べないな、と思いました。

だから、全国に届かなかった選手たちの思いも忘れません。

メンバーの中には、予選での走りを何度も振り返り、全国大会では、今までで一番良い走りをしたいと、練習に励んでいる選手がいます。

普段はライバル同士でも、チーム神奈川のみんなで心を一つにし

て、走り・跳び・投げます。また、この日清カップは、交流大会でもあります。勝つことだけにこだわりすぎず、全国から集まる選手と仲を深めることも楽しみの一つです。

このような陸上競技ができることは、当たり前ではありません。

本大会を開催して下さる運営の方々、大会の度に選手が安全・公平に競技に参加出来るよう、協力をしてくれる審判の皆様、いつも本当にありがとうございます。

自分たちを支えて下さる多くの人への感謝を忘れず、色々な人の想いを胸に、県代表としての自覚と責任をもって、全力を尽くします。

これからも、「指導」「声援をどうぞよろしくお願い致します。

2025年8月23日

神奈川県選手団代表

横浜AC